

# 迎接與國立政治大學原住民族研究中心的學術交流10週年

国立政治大学原住民族研究中心との学术交流10周年を迎えて  
10<sup>th</sup> Anniversary of Academic Exchange with ALCD, NCCU



北海道大學愛努・先住民研究中心設立10週年研討會大合照。

北海道大学アイヌ・先住民研究センター設立十周年記念シンポジウムの記念写真。

文 | 落合研一

(北海道大學愛努・先住民研究中心准教授)

圖 | 政治大學原住民族研究中心

譯 | 陳由璋 (政治大學民族系博士生)

文 章 | 落合研一

(北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授)

圖・写真 | 政治大学原住民族研究センター

翻 訳 | 陳由璋 (政治大学民族学学科博士後期課程)

2007年4月，本中心為善用身為北海道大學的綜合大學的優點，網羅研究科等單位，以推動學術上愛努、原住民相關研究教育為目的，從專任教師1名、兼任教師12名的配置踏出第一

2007年4月，当センターは，北海道大学の総合大学としてのメリットを活かし，研究科等の部局を横断して，アイヌ・先住民に関する研究教育を学際的に推進することを目的に，専任教員1名，兼務教員12名で発足した。2010

步。2010年度起專任教師改為6名，成為能涵蓋文化人類學、語言學、考古學、原住民遺產學、歷史學、博物館學、法律學的綜合性愛努、原住民研究。今年度，迎接本中心設立10週年，於2018年2月3日舉辦紀念研討會。研討會上午議程部分，請到中村睦男名譽教授為我們演講。中村教授當時為北海道大學校長，領導本中心成立，演講內容為回顧中心成立。緊接的是中心專任教師、兼任教師針對各自專業領域的十年來研究活動進行報告。下午議程部分，則請到協助中心研究事業的愛努民族各位夥伴與和人（大和民族）研究者，針對研究事業的成果與效果、今後的期望等進行發表。因為篇幅關係，在此容我不介紹發表內容，因預計明年度會盡速將報告內容集結成手冊出刊發行，還請讀者再自行參照手冊內容。



研討會會議議程。  
シンポジウムの會議日程。

年度から専任教員が6名となり，文化人類学，言語学，考古学，先住民遺産学，歴史学，博物館学，法律学にわたる総合的なアイヌ・先住民研究が可能となった。今年度，当センターは設立10周年を迎え，2018年2月3日に記念シンポジウムを開催した。シンポジウムの午前の部では，当時の北海道大学総長として当センターの設立をリードなさった中村睦男名誉教授から設立を振り返るご講演をいただき，続いてセン

ターの専任教員，兼務教員が各専門領域における10年の研究活動について報告した。午後の部では，センターの研究事業に協力いただいているアイヌ民族の皆さんや和人研究者に，研究事業の成果や効果，今後の要望等を発表していただいた。紙幅の関係でここでは内容に触れないが，来年度早々に報告内容をまとめたブックレットを公刊する予定なので，そちらを参照いただきたい。

### 前任林修澈主任、現任黃季平主任的演講

本中心為推動國際性愛努・原住民研究，這十年來與國外各所大學與研究機關簽訂學術交流協定。中心發跡不久，於2007年10月18日與本中心簽訂學術交流協定的第一個單位，即是國立政治大學原住民族研究中心。今年度也因逢與政大原住民族研究中心學術交流10週年，本中心邀請到前任主任林修澈名譽教授與現任主任黃季平副教授參加研討會，林教授以「台灣原住民族政策10年來的動向」，黃主任則以「國立政治大學原住民族研究中心10年來的發展—從與愛努・先住民研究中心簽訂學術交流協定到現在」為題，到場為我們演講。

林教授概觀了這10年來的原住民族政策，同時淺顯易懂地為與會者說明蔡英文政府上台後的原住民族政策爭議。以下由筆者做概要整理。台灣一直以來被說有原住民族、客家、福佬人、外省人這四大族群（民族集團），但近年來由台灣男性與東南亞女性通婚的「新住民」急遽增加。另外原本居住於台灣平地，清朝統治時期因與漢族通婚等造成漢族文化滲透的「平埔族」，也要求進行原住民族認定。現在台灣，原住民族的族群可依據民族語言，個人則可依據戶籍進行認定，個人身分則有「山地原住民」與「平地原住民」。清朝統治時期之後仍維持獨自文化的原住民族之中，出現反對平埔族原住民認定的意見，也有不少意見認為即使承認認定但應該縮限所給予的保障權利，然而2016年，

### 林修澈前主任，黃季平現主任のご講演

当センターは、国際的なアイヌ・先住民研究を推進するため、この10年間に海外の様々な大学や研究機関と学术交流協定を締結してきたが、発足から間もない2007年10月18日、最初に当センターと学术交流協定を締結してくださったのが国立政治大学原住民族研究中心である。今年度は同研究中心との学术交流10周年にもあたることから、前主任の林修澈名誉教授と現主任の黄季平副教授をシンポジウムにお招きし、林先生には「台湾原住民族政策10年の動向」、黄先生には「国立政治大学原住民族研究中心10年の発展—アイヌ・先住民研究センターとの学术交流協定締結から現在まで」との演題でご講演いただいた。

林先生には、この10年間の原住民族政策を概観するとともに、蔡英文政権発足後の原住民族政策の争点をわかりやすく説明していただいた。以下に概要をまとめさせていただく。台湾には原住民族、客家、福佬人、外省人という4つの族群（民族集團）があるといわれてきたが、近年、台湾男性と東南アジア女性の通婚による「新住民」が急激に増加している。また、もともと台湾の平野部に暮らしていたが、清朝統治期に漢民族との通婚等によって漢民族文化が浸透していった「平埔族」も、原住民族認定を求めるようになった。現在の台湾では、原住民族の族群は民族言語に基づいて、個人は戸籍に基づいて認定されており、個人の身分には「山地原住民」と「平地原住民」がある。清朝統治期以降も独自の文化を維持してきた原住民族には、平埔族の原住民族認定に反対する意見、認めるとしても保障する権利を少なくすべきといった意見も少なくないが、2016年、蔡英文総統は、「山地原住民」と「平地原住民」の他に「平埔原住民」という身分を創設する方針を



政大原民中心林修澈名譽教授為與會者說明蔡英文政府上台後的原住民族政策爭議。

政治大學原住民族研究中心林修澈名譽教授是蔡英文政權發足後的原住民族政策的爭點參加者達說明說。

蔡英文總統的政策方針表示要在「山地原住民」與「平地原住民」之外創設「平埔原住民」的身份，並於總統府內設置「原住民族歷史正義與轉型正義委員會」。另一方面，客家是起源古代中國東北部，因躲避戰亂往南遷居的漢族，現在客家維持著與中國大陸的漢族相異的獨特文化。在台灣，客家此族群被認定為客家文化振興政策的對象，但對象單位並非個人。而是以振興政策主管機關的身分設立客家委員會。黃主任則是為與會者介紹原住民族研究中心十年來的活動。原民中心實施了各類研究教育，其中最為重要的，可說是族群認定與個人認定為首的原住民族政策相關研究。這些研究的成果強烈地反映在台灣原住民族政策。另外，既然是依據族語進行原住民族群族認定，恢復、維持族語

示し、總統府に「原住民族歷史正義及び轉型正義委員會」を設置した。他方、客家は、古代の中國東北部にルーツをもちながら戦亂を避けて南に移住した漢民族で、現在の中國大陸における漢民族文化とは異なる独自の文化を維持している。台灣では、客家という族群が客家文化振興政策の對象として認定されているが、個人は對象になっていない。振興政策の主管官庁として客家委員會が

設けられている。黃先生には、原住民族研究中心の10年間の活動を紹介していただいた。様々な研究教育を実施してこられたが、とりわけ重要なのは、族群認定と個人認定をはじめとする原住民族政策に関する研究であろう。この研究成果は、台灣の原住民族政策に大きく反映されている。また、民族言語に基づいて原住民族の族群が認定される以上、民族言語の回復・維持は喫緊の課題だが、原住民族研究中心は、原住民族言語能力検定制度の創設に尽力された他、現在までに42の民族言語について9段階の教科書を刊行、日常生活や文化に特化した内容の補助教材も編纂なされている。さらに民族言語のウィキペディア制作にも挑戦なさるなど、民族言語の回復・維持に直結する活動の質と量には驚かされるばかりである。また、原住民族研究中心が隔月で発行している原住民族教育情報誌「原教界」も、台灣の社会教育において重要な役割を果たしていることは疑いな

雖為吃緊的課題，但原住民族研究中心除了盡力於原住民族語言檢定制度的創立外，現今為止針對42語的族語發行了9階教材，也編撰了強化日常生活與文化內容的補助教材。更進一步挑戰製作族語維基百科等工作，該中心直接連接恢復、維持族語的活動質量與數量皆讓人驚嘆不已。另外，原住民族研究中心隔月發行的原住民族教育情報誌《原教界》，也無庸置疑在台灣的社会教育中發揮重要的角色功效。今年度該誌為本中心企劃愛努民族相關專欄，並由本中心專任教師執筆撰稿。

### 與原住民族研究中心今後的學術交流

現今日本，依據1997年制定的「愛努文化振興法」實施文化振興政策。愛努民族在法律上如此情況與台灣的客家類似。另一方面，以愛努語為母語並能使用的族人僅剩不多，日常生活形式也與和人幾乎相同。愛努民族如此現況與台灣的平埔族類似。2008年愛努民族被承認為日本的原住民之後，一直被質問說該當法律上的意義，為使本中心的研究成果能與有益政策建言有所連結，因此確認台灣的客家文化振興政策的成果，關注平埔族的原住民族認定為主的日後動向對於本中心來說都十分重要，原住民族研究中心所給予的支援更是不可或缺。此外，為了加速愛努語為首的愛努文化恢復、維持、發展，原住民族研究中心的經驗更有指點本中心的必要性，對本中心來說，與原住民族研究中心的學術交流意義今後也會不斷增長。當然本中心也會去深探原住民族研究中心所



政大原民中心黃季平主任向與會者介紹原住民族研究中心10年來的活動。  
政治大学原住民族研究センター主任黄季平教授がセンター内近十年の研究活動について参加者達に紹介していた。

い。今年度はアイヌ民族に関するコラムを企画してくださり，当センターの専任教員が執筆させていただいている。

### 原住民族研究中心とのこれからの學術交流

現在の日本では，1997年制定の「アイヌ文化振興法」に基づいて文化振興施策が実施されている。このようなアイヌ民族の法的状況は台湾の客家に類似している。他方，アイヌ語を母語として話せる人はわずかとなり，日常の生活様式も和人とほぼ同様である。このようなアイヌ民族の現状は台湾の平埔族に類似している。2008年にアイヌ民族が日本の先住民族であると認められて以降，その法的意義が問われ続けているが，当センターの研究成果を有益な政策提言につなげるためには，台湾における客家文化振興政策の成果を確認し，平埔族の原住民族認定をめぐる今後の動向を注視することが重要であり，原住民族研究中心のサポートが不可欠である。また，アイヌ語をはじめとするアイヌ文化の回



會議現場政大原民中心林修澈名譽教授與北海道大學中村睦男名譽教授、前校長、常本照樹教授合影。

政治大學原住民族研究中心林修澈名譽教授、元北海道大學總長中村睦男名譽教授與常本照樹教授的紀念寫真。

認為的學術交流意義，那怕只能發掘出一小部分意義，本中心也希望能不斷努力探尋。

2020年4月24日，民族共生象徵空間以及國立愛努民族博物館將開放給一般民眾。要將愛努民族具有魅力的文化，傳達給到訪北海道的日本國民，還有從國外來的觀光客這件事，對日本來說是首次的投入工作，本中心與政府負責人也從規劃階段就多次一同參訪有各種實際績效的台灣，每次都受到原住民族研究中心的照顧。本中心所主辦的研討會之所以能邀請到原住民族委員會的主任委員、副主任委員、文化發展中心主任，也是有賴於原住民族研究中心的盡心盡力的幫助。本中心由衷感謝本次紀念研討會林教授、黃主任的精彩演講，以及至今為止的莫大協助。



復・維持・發展を加速させていくためには、原住民族研究中心の経験をさらにご教示いただく必要があります、当センターにとって、原住民族研究中心との学术交流の意義はこれからも増すばかりである。もちろん当センターも、原住民族研究中心にとっての学术交流の意義を少しでも深められるよう努力を重ねていく所存である。

2020年4月24日には、民族共生象徵空間および国立アイヌ民族博物館が一般公開となる。アイヌ民族の魅力的な文化等を、北海道を訪れる国民、そして海外からの観光客に発信することは、日本にとって初の取組であり、当センターも政府担当者とともに、様々な実績を有する台湾を企画の段階から何度も視察させていただいたが、その度に原住民族研究中心のお世話になった。当センター主催のシンポジウムに原住民族委員会の主任委員、副主任委員、文化發展中心主任をお招きすることができたのも、原住民族研究中心にご尽力いただいた賜物である。林先生、黄先生には、今回の記念シンポジウムでの素晴らしいご講演、そしてこれまでの多大なご協力に心から感謝申し上げます。◆